

幕張車両センターで 労災死亡事故が発生

全責任はJR東日本とCTSにある

幕張車両センターで6月21日、外板清掃作業中に労働者が倒れて意識不明となり救急搬送され24日朝に亡くなりました。無責任に仕事を丸投げ外注化した結果、取り返しのつかない事態がひきおこされました。

またも仲間が犠牲にされた

今回の労災死の責任は100パーセントJR東日本とCTSにあります。JRはグループ会社に徹底したコスト削減を強要し、CTSは要員削減で現場に矛盾を押し付けてきました。幕張での清掃労働者は10年前の3分の2にまで減らされています。低賃金でまともに要員も確保できない状況を作っただけで、今度は「自社で要員が確保できないから」と仕事を次々と丸投げ

外注化の無責任体制の中で 現場の仲間が犠牲に！

① JR東日本

↓ 丸投げ外注化

② CTS

↓ さらに丸投げ外注化

③ 秩父商会

↓ さらに丸投げ外注化！

④ コンディショングリーン

→ 労災死亡事故が発生！

さらに…

亡くなった労働者はスキマバイト「タイミー」を通じて雇用され、今回の作業は初めてだった！

したのです。結果、犠牲となったのはスキマバイトで来た労働者でした。誰も責任をとらない外注化体制による死亡事故です。幕張車両センターでは17年8月にもCTSの仲間が快速車両の整備作業中に倒れ、亡くなっています。救命措置に駆けつけた仲間をはじめ、誰もが無念の思いと怒りを抱え、いつ誰が倒れてもおかしくない酷暑の中で働いています。必要なことは何よりも要員増です。それ抜きに「熱中症対策」など空論です。しかし、JRはグループ会社にさらなるコスト削減を強制し続けています。

闘って職場の安全を守ろう

「安全が確保されない限り仕事は始めない」「いざとなれば仕事を止める」—— そういう闘いが必要です。

信じられない鉄道事故の頻発と、グループ会社における数々の労災死—— それを目の前にしながら、「新たな価値創造」「限界をこえろ」とくり返し、人の命と引き換えに黒字を積み上げるJR東日本を絶対に許すことはできません。

自ら声を上げ、団結した力で会社に強制する以外に職場の安全は守れません。動労千葉とともに声をあげよう。